

## 本学学生の体育授業に対する意識に関する一考察(1)

～小・中・高等学校における体育授業評価について～

木下茂昭 白澤貴子 涌井佐和子

### A Consideration for Students' Consciousness of Physical Education in Komazawa Women's Junior College(1)

#### Evaluation of Physical Education at Elementary School, Junior High School, and High School

Shigeaki KINOSHITA; Takako SHIRASAWA; Sawako WAKUI

#### 1. 緒言

大学審議会が1991年(平成3年)2月に「大学教育の改善について」という答申を出してから、5年が経過した。その答申による大学教育の改善のための方策は(1)大学設置基準の大綱化、(2)大学評価システム、(3)財政面の処置などであった。大学設置基準の大綱化の中で、一般教育科目の見直し、専門教育科目の充実など科目区分を設けないことや各大学独自の自由なカリキュラム編成をすることが述べられている。また、大学の評価システム、すなわち、各大学の自己評価については、各大学の教育研究活動に対する自己評価をするための規定を設けることが設置基準に定められている。このことは、各大学の教育研究活動の活性化を図り、質の向上、社会的責任を果たすために自己評価を行ない、改善のための継続的な努力が必要であることを意味している。このような背景の基に、各大学は自己評価システムの確立、カリキュラムの見直しなどを行なってきた。

一般教育の取り扱い方について、臨時教育審議会(以下:臨教審)は、

- ①各大学の教育理念に基づいて、自由かつ柔軟に進められるべきであること
- ②一般教育と専門教育を相対立するものにとらえるのではなく、両者を密接に結び付けて、学部教育としての整合性を図ること
- ③高等学校教育との関連や接続に配慮すること
- ④人文・社会・自然の3分野の均等な履修にこだわらず、学際的学習等も加えた積極的なカリキュラムを構成すること
- ⑤教員組織や教養部などの見直しや適切な処置を講ずること

などについて提唱している。臨教審から出された上述したような勧告は、これまでも各方面から指摘されてきた問題である。しかし、これらの問題は、単に一般教育のみの問題としてではなく、専門教育とのかかわりで考えていく必要がある。

さて、新制大学が発足した当時、一般教育の履修は、人文・社会・自然の3系列を均等に12単位ずつ計36単位、さらに外国語科目と保健体育はその枠から個別に位置づけされていた。すなわち、卒業要件の一部として履修する必要があった。保健体育が卒業要件として含まれたのは、学問を通しての知育も、身体運動を通しての体育も、両者とも人格の形成に直接かかわる徳育を目指すものであって、知育・徳育・体育の三者が有機的に関連し合うことにより「人間形成」がなされると考えていたからであろう。

しかし、臨教審の勧告により、従来必修科目として位置づけられてきた「保健体育科目」は、各大学の実態に応じて位置づけられることとなった。各大学の対応をみると、必修科目のまま取り扱っている大学、「選択必修科目」、あるいは「選択科目」として開講している大学など様々である。各大学では、教員間のコンセンサスを得るために、相当の時間をかけて議論を重ねてきたり、あるいは、学生の声を聞くために質問紙調査などを実施してきている。それらの結果をうけて、上述したような形式でカリキュラムを改訂し、開講している。

そこで、本研究では、駒沢女子短期大学学生の保健体育科目に対する意識について質問紙調査をすることにより、学生の体育に対する好嫌度、短大で実施してみたい種目などを明らかにし、今後の授業を充実させていくための基礎資料を収集することを目

的とした。

## 2. 方法

駒沢女子短期大学に在学する1年生541名(英文科207名, 保育科118名, 生活科216名)を対象に, 小・中・高等学校時代に受けた体育授業に関する質問紙調査を実施した。調査は短期大学入学直後, 第1回目の体育授業オリエンテーション時に行なった。なお, 調査用紙の回収率は当日の欠席者を除き100%であった。

調査項目は, 1)体育に対する好嫌度, 2)体育に対する好嫌度の評価理由, 3)好きな運動種目と嫌いな運動種目, 4)過去の運動クラブ加入状況, 5)現在の運動クラブ加入状況, 6)短期大学で希望する体育実技種目であった。体育に対する好嫌度は, 小・中・高等学校時の体育授業それぞれに対する好き嫌いについて, 「大変好き=5」～「大変嫌い=1」までの5段階評定尺度を用いた。また, 体育に対する好嫌度の評価理由, 好きな運動種目・嫌いな運動種目, 運動クラブへの加入状況, 現在の運動クラブへの加入状況, 短期大学で希望する体育実技種目については自由記述方式とした。

以上の調査データは, 各項目に対する単純集計を施した後, 特定項目についてクロス集計を行なった。さらに, 必要に応じて $\chi^2$ 検定およびKruskal Wallis検定を施行し, 有意差も検討した。

## 3. 結果と考察

### 3. 1. 小・中・高等学校時代の体育に対する好嫌度について

小・中・高等学校時代の体育の好嫌度についてのクロス集計結果は図1に示す通りである。好嫌度を順位尺度としてKruskal Wallis 1-Way ANOVAを施行した結果, 小・中・高等学校の好嫌度の回答に有意な差が認められた ( $df=2, \chi^2=18.33, p<.0001$ )。体育授業に対しポジティブな評価をした者, すなわち「大変好き」「やや好き」と肯定的評価をした者は小学校で66.2%, 中学校で55.3%, 高等学校で64.8%であった。「大変嫌い」に対する回答率にはほとんど変化は見られず, 「やや嫌い」に対する回答は中学校から高等学校にかけて約半数に減少しており, 好意的な評価をする者が多くなる傾向を示した。しかし, 否定的評価をした者がいずれも1割以上存在していたという結果は, 服部ら(1978)や麻生ら(1979)の報告と一致しており, この傾向は1994年(平成6年)の学習指導要領改訂後も変化していないことになる。

### 3. 2. 体育の好嫌度の理由について

小・中・高等学校における体育の好嫌度の評価理由は表1に示す通りである。小・中学校時代の体育授業に好意的評価をした者の多くは, その理由として「体を動かすことが好きだったから」「楽しかったから」と回答していた。小学校の授業評価に関する麻生ら(1979)の報告でも類似した項目の評価は極

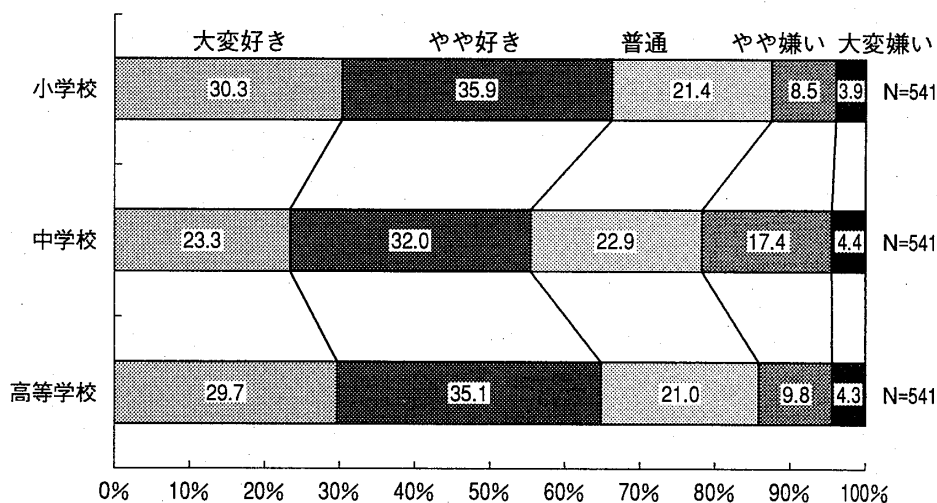


図1. 体育に対する好嫌度

表 1. 体育に対する好嫌度とその理由

好嫌度	5			4			3			2			1			
	順位	項目	%	N	順位	項目	%	N	順位	項目	%	N	順位	項目	%	N
小学校	1	体を動かすことが好き	(36.1)	83	1	体を動かすことが好き	(27.9)	46	1	特定の種目が苦手	(23.1)	27	1	運動全般が苦手	(34.9)	30
	2	楽しかった	(12.6)	29	2	楽しかった	(7.9)	13	2	嫌いな種目があった	(10.3)	12	2	運動神経が鈍い	(12.8)	11
	3	遊び感覚でできた	(8.3)	19	2	遊び感覚でできた	(7.9)	13	3	運動全般が苦手	(8.5)	10	3	特定の種目が苦手	(10.5)	9
	4	みんなと協力できた、一緒に楽しめた	(6.1)	14	4	みんなと協力できた、一緒に楽しめた	(4.8)	8	4	体を動かすことが好き	(6.8)	8	4	足が遅い、走ることが苦手	(10.5)	9
	5	運動が得意	(4.8)	11	5	好きな種目が多かった	(4.2)	7	5	楽しかった	(6.0)	7	5	嫌いな種目があった	(4.7)	4
		その他	(38.3)	74	5	好きな種目も嫌いな種目もある	(4.2)	7	その他	(45.3)	53	その他	(26.7)	23		
		有効回答		230		有効回答		165		有効回答		117		有効回答		86
中学校	1	体を動かすことが好き	(29.9)	49	1	体を動かすことが好き	(12.1)	25	1	特定の種目が苦手	(11.0)	13	1	先生に対する否定感情	(21.2)	22
	2	楽しかった	(8.5)	14	2	先生に対する肯定感情	(8.7)	18	2	先生に対する否定感情	(10.2)	12	2	運動全般が苦手	(18.3)	19
	3	クラブに入ってから運動ができるようになった	(7.3)	12	3	楽しかった	(6.8)	14	3	好きなものも嫌いなものもある	(8.5)	10	3	特定の種目が嫌い	(11.5)	12
	4	先生に対する肯定感情	(6.1)	10	4	みんなと協力できた、一緒に楽しめた	(5.3)	11	4	特定の種目が苦手	(5.9)	7	4	特定の種目が苦手	(7.7)	8
	5	みんなと協力できた、一緒に楽しめた	(5.5)	9	5	いろいろな種目ができた	(4.4)	9	5	特定の種目が好き	(4.2)	5	4	苦手な種目ばかりだった	(7.7)	8
		5 ストレス解消	(37.2)	61	その他	(62.6)	129	その他	(60.2)	71	その他	(33.7)	35	5	ついでいくのが大変	(7.7)
		有効回答		164		有効回答		206		有効回答		118		有効回答		104
高等学校	1	選択性で好きな種目ができた	(19.0)	40	1	選択性で好きな種目ができた	(18.6)	39	1	好きなものも嫌いなものもある	(10.0)	12	1	運動全般が苦手	(16.7)	9
	2	体を動かすことが好き	(16.7)	35	2	楽しかった	(13.3)	28	2	選択性で好きな種目ができた	(8.3)	10	1	苦手な種目ばかりだった	(16.7)	9
	3	楽しかった	(11.9)	25	3	先生に対する肯定感情	(7.1)	15	3	嫌いな種目があった	(6.7)	8	3	ついでいくのが大変	(14.8)	8
	4	みんなと協力できた、一緒に楽しめた	(6.7)	14	4	体を動かすことが好き	(4.8)	10	3	先生に対する肯定感情	(5.0)	6	4	特定の種目が嫌い	(9.3)	5
	5	ストレス解消	(6.2)	13	5	自由な雰囲気だった	(3.8)	8	3	先生に対する肯定感情	(4.2)	5	5	先生に対する否定感情	(8.0)	4
		その他	(39.5)	83	その他	(57.6)	121	5	やる気がでない、めんどう	(4.2)	5	その他	(35.2)	19	その他	(29.6)
		有効回答		210		有効回答		221		有効回答		120		有効回答		54

上位 5 項目以外は「その他」と表記した。

表 2. 体育に対する好嫌度と好きな種目

好嫌度	5	4	3	2	1
小学校	<p>【種目】</p> <p>バスケットボール (14.0) 69</p> <p>ドッジボール (13.0) 64</p> <p>水泳 (11.2) 55</p> <p>サッカー (7.5) 37</p> <p>跳び箱 (6.9) 34</p> <p>回答数 492</p>	<p>【種目】</p> <p>ドッジボール (12.5) 39</p> <p>バスケットボール (11.5) 36</p> <p>水泳 (10.2) 32</p> <p>ポートボール (9.9) 31</p> <p>跳び箱 (7.7) 24</p> <p>回答数 313</p>	<p>【種目】</p> <p>ドッジボール (15.6) 29</p> <p>水泳 (12.4) 23</p> <p>バスケットボール (9.7) 18</p> <p>サッカー (8.1) 15</p> <p>ポートボール (8.1) 15</p> <p>回答数 186</p>	<p>【種目】</p> <p>水泳 (16.2) 19</p> <p>なわとび (12.0) 14</p> <p>ドッジボール (10.3) 12</p> <p>バスケットボール (10.3) 12</p> <p>ポートボール (8.5) 10</p> <p>回答数 117</p>	<p>【種目】</p> <p>水泳 (17.6) 6</p> <p>バスケットボール (14.7) 5</p> <p>ない (14.7) 5</p> <p>ドッジボール (8.8) 3</p> <p>ポートボール (8.8) 3</p> <p>回答数 34</p>
中学校	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (24.2) 65</p> <p>バスケットボール (23.0) 62</p> <p>水泳 (8.2) 22</p> <p>バトミントン (4.8) 13</p> <p>テニス (4.1) 11</p> <p>回答数 329</p>	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (26.5) 76</p> <p>バスケットボール (20.6) 59</p> <p>水泳 (8.0) 23</p> <p>テニス (5.2) 15</p> <p>バトミントン (4.9) 14</p> <p>回答数 350</p>	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (22.3) 41</p> <p>バスケットボール (16.8) 31</p> <p>バトミントン (9.8) 18</p> <p>水泳 (7.1) 13</p> <p>マツ運動 (6.0) 11</p> <p>回答数 191</p>	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (15.5) 24</p> <p>バスケットボール (8.4) 13</p> <p>バトミントン (8.4) 13</p> <p>水泳 (8.4) 13</p> <p>なし (4.5) 7</p> <p>回答数 120</p>	<p>【種目】</p> <p>バスケットボール (22.6) 7</p> <p>バレーボール (19.4) 6</p> <p>水泳 (16.1) 5</p> <p>球技大会 (6.5) 2</p> <p>テニス (6.5) 2</p> <p>回答数 31</p>
高等学校	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (21.7) 106</p> <p>バスケットボール (14.3) 70</p> <p>バトミントン (13.9) 68</p> <p>テニス (12.1) 59</p> <p>ソフトボール (6.3) 31</p> <p>回答数 489</p>	<p>【種目】</p> <p>バトミントン (19.7) 90</p> <p>バレーボール (17.9) 82</p> <p>テニス (15.3) 70</p> <p>バスケットボール (11.1) 51</p> <p>卓球 (6.6) 30</p> <p>回答数 458</p>	<p>【種目】</p> <p>バレーボール (25.1) 54</p> <p>バトミントン (19.5) 42</p> <p>テニス (14.4) 31</p> <p>バスケットボール (10.7) 23</p> <p>卓球 (7.9) 17</p> <p>回答数 215</p>	<p>【種目】</p> <p>バトミントン (25.3) 20</p> <p>バレーボール (10.1) 8</p> <p>卓球 (10.1) 8</p> <p>テニス (10.1) 8</p> <p>ソフトボール (7.6) 6</p> <p>バスケットボール (7.6) 6</p> <p>回答数 79</p>	<p>【種目】</p> <p>ない (18.2) 6</p> <p>バトミントン (12.1) 4</p> <p>バレーボール (12.1) 4</p> <p>卓球 (12.1) 4</p> <p>テニス (12.1) 4</p> <p>回答数 34</p>

上位5つの回答のみ表記した。

表3. 体育に対する好嫌度と嫌いな種目

好嫌度	5	4	3	2	1
小学校	<p>【種目】 持久走・マラソン マット運動 鉄棒 跳び箱 回答数</p> <p>% N (18.9) 50 (15.1) 40 (12.1) 32 (10.2) 27 (7.9) 21 265</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 跳び箱 鉄棒 マット運動 水泳 回答数</p> <p>% N (22.1) 54 (10.7) 26 (10.2) 25 (10.2) 25 (9.4) 23 244</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 跳び箱 マット運動 鉄棒 水泳 回答数</p> <p>% N (17.0) 31 (14.3) 26 (12.6) 23 (9.3) 17 (9.3) 17 182</p>	<p>【種目】 鉄棒 跳び箱 持久走・マラソン マット運動 短距離・徒競走 水泳 回答数</p> <p>% N (16.1) 27 (14.9) 25 (14.3) 24 (11.9) 20 (6.0) 10 (6.0) 10 168</p>	<p>【種目】 跳び箱 マット運動 鉄棒 陸上競技全般 ドッジボール 持久走・マラソン 回答数</p> <p>% N (16.9) 10 (15.3) 9 (13.6) 8 (10.2) 6 (8.5) 5 (8.5) 5 59</p>
中学校	<p>【種目】 持久走・マラソン マット運動 水泳 陸上競技全般 回答数</p> <p>% N (25.1) 45 (17.9) 32 (8.9) 16 (7.8) 14 (5.6) 10 179</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 水泳 マット運動 バスケットボール 陸上競技全般 回答数</p> <p>% N (26.4) 74 (14.3) 40 (10.4) 29 (6.8) 19 (6.8) 19 280</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン マット運動 水泳 バスケットボール 陸上競技全般 回答数</p> <p>% N (28.8) 61 (13.7) 29 (13.2) 28 (6.6) 14 (6.1) 13 212</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 水泳 マット運動 バスケットボール バレーボール 回答数</p> <p>% N (22.2) 40 (12.8) 23 (11.1) 20 (8.3) 15 (6.7) 12 180</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 陸上競技全般 マット運動 水泳 バレーボール 回答数</p> <p>% N (29.3) 12 (14.6) 6 (12.2) 5 (9.8) 4 (7.3) 3 41</p>
高等学校	<p>【種目】 持久走・マラソン 水泳 マット運動 陸上競技全般 回答数</p> <p>% N (27.0) 55 (13.7) 28 (9.8) 20 (8.3) 17 (6.4) 13 204</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン バスケットボール 水泳 ダンス マット運動 回答数</p> <p>% N (26.4) 77 (8.9) 26 (8.6) 25 (7.2) 21 (6.8) 20 292</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 水泳 バスケットボール ダンス マット運動 回答数</p> <p>% N (25.0) 48 (10.4) 20 (9.9) 19 (7.3) 14 (6.8) 13 182</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン バスケットボール バレーボール 水泳 マット運動 回答数</p> <p>% N (24.7) 20 (18.5) 15 (13.6) 11 (8.6) 7 (6.2) 5 81</p>	<p>【種目】 持久走・マラソン 陸上競技全般 バスケットボール 水泳 バレーボール 回答数</p> <p>% N (18.9) 10 (13.2) 7 (9.4) 5 (9.4) 5 (7.5) 4 53</p>

上位5つの回答のみ表記した。

めて高くなっている。

高等学校の体育授業になると、好意的評価をした理由として種目選択性をあげる学生が多かった。種目選択性に関してはさまざまな論議がなされているが(例えば、新堀, 1994; 鈴木, 1996), 自己責任のもとで選択した種目を行なうことは、スポーツの楽しさを味わう手段の1つとして有効な方法であると思われる。

一方、体育授業に否定的な評価理由についてみると、小学校では「運動全般が苦手」「特定の種目が苦手」などのように、運動に対する苦手意識に関係した回答が高い比率を占めていた。これが中学校になると、「先生が嫌い」など、教師に対する否定感情についての回答も多くなっている。

この結果から、児童期に運動技能が低いと体育への否定的な評価に最も大きく影響すること、中・高等学校では技能ばかりでなく指導者に対する感情も授業への好嫌度に影響することが示唆されよう。

### 3. 3. 体育の好嫌度別の種目評価について

体育授業に対する好嫌度と好きな種目および嫌いな種目についてクロス集計を行なった結果は表2, 表3に示す通りである。好きな種目としては集団で参加できる球技系種目が多くあげられていた。ただし、バスケットボールは体育に対する好嫌度に関係なく嫌いな種目の上位にも入っており、好き嫌いがはっきりと分かれる種目であることが伺える。

一方、嫌いな種目についてみると、小学校の体育授業に対し「大変嫌い」「やや嫌い」と否定的評価をしていた学生の多くは、跳び箱や鉄棒などの器械運動系種目をあげている。これに対し「大変好き」「やや好き」と肯定的評価をした学生は、嫌いな種目としては器械運動系種目よりも持久走・マラソンをあげることが多い。同時に、この種目は中・高等学校において体育の好嫌度に関係なく嫌いな種目の第1

位となっている。したがって、小学校時代の体育に対する好嫌度は、器械運動系種目などの「できる・できない」がはっきりと分かれるような種目、すなわち達成型種目への好き嫌いに関係しているが、持久走・マラソンは体育自体への好嫌度にそれほど影響しないものと考えられる。

### 3. 4. 体育の好嫌度と運動クラブへの加入状況について

小・中・高等学校時代の運動クラブへの加入は。中学校 (69.3%) > 小学校 (58.0%) > 高等学校 (44.0%) の順で低くなる傾向を示した(表4)。表5は体育授業への好嫌度と運動クラブへの加入状況との関係を示したものである。両者は $\chi^2$ 検定でいずれも有意差が認められ(それぞれ,  $P < .001$ ), 各学校期において、運動クラブに加入している者の約6割以上が、体育授業を「大変好き」「やや好き」と回答していた。その反面、約1割が体育授業を「大変嫌い」「やや嫌い」と否定的に評価していながら、運動クラブには加入していたと回答している。自発的に運動クラブへ加入しているということは、スポーツ好きであったと考えられ、このようなスポーツ好きの体育嫌いも少なくはなかった。しかし、概要は麻生ら(1979)や波多野ら(1980)の報告と同様に、体育授業以外のスポーツ活動に積極的に参加する者ほど体育授業への好感度は高い傾向にあると考えられる。

### 3. 5. 短期大学での運動クラブ加入状況について

短期大学での運動クラブ加入率は、全体で1.7%に過ぎず、わずかな学生しか運動クラブに加入していないことが明らかとなった。本調査が入学直後に実施されたため、その後加入率が多少増加したことを考慮しても、運動クラブへの加入は高等学校時代に比べ、極端に減少していると言える。

表4. 運動クラブ加入率

N=541

	全体の加入率	
	%	N
小学校	(58.0)	314
中学校	(69.3)	375
高等学校	(44.0)	238

表5. 体育に対する好嫌度別の運動クラブ加入状況

好嫌度	5		4		3		2		1	
	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N
小学校	(43.9)	138	(28.0)	88	(15.9)	50	(9.6)	30	(2.6)	8
中学校	(29.1)	109	(36.0)	135	(19.2)	72	(12.8)	48	(2.9)	11
高等学校	(37.0)	88	(41.2)	98	(15.5)	37	(3.4)	8	(2.9)	7

好嫌度別の%は、各学校時代のクラブ加入者に対する好嫌度の割合を示す。

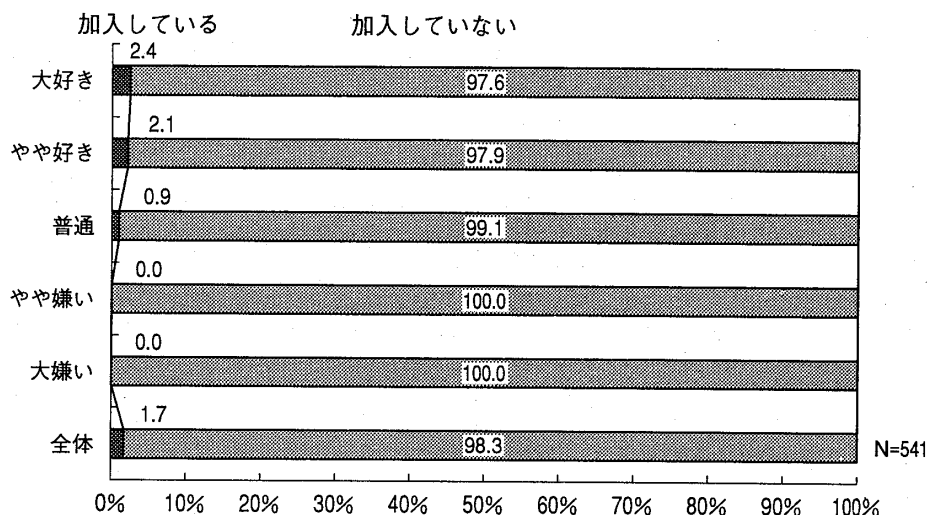


図2. 高等学校での体育の好嫌度別現在の運動クラブ活動状況

表6. 短大の授業で実施してみたいスポーツ

種目別	%	N
エアロビックダンス	(9.9)	80
テニス	(9.5)	77
ゴルフ	(8.2)	66
バトミントン	(7.5)	61
バレーボール	(6.9)	56
ラクロス	(4.7)	38
卓球	(3.2)	26
バスケットボール	(3.2)	26
水泳	(3.0)	24
ソフトボール	(2.2)	18
その他	(41.6)	336
弓道、ハンドボール、スキー、スノーボード、柔道、ボーリング、ジャズダンス、スカッシュなど		
合計	(100.0)	808

10位以下はその他とした

図2は、高等学校時代の体育授業に対する好嫌度別に短期大学での運動クラブ加入状況について示したものである。これをみると、明らかに体育が好きだった者ほど、短期大学で運動クラブへ加入する率が高くなっている。過去の体育授業に対する好意的評価は、その後の運動参加の動機づけの一因となることが推察される。

### 3. 6. 短期大学の体育で希望する種目について

短期大学の体育実技で実施したいスポーツ種目の集計結果は表6に示す通りである。第1位はエアロビックダンス (9.9%)、第2位テニス (9.5%)、第3位ゴルフ (8.2%)、以下バトミントン (7.5%)、バレーボール (6.9%) の順であった。球技系種目が好まれる点は高等学校時代と同様な傾向である。こうした球技系種目は、道具、場所、人数などを考え

ると、学校教育の場が最も体験しやすい場所であると言える。また、エアロビックダンスは、中・高等学校で嫌いな種目としてあげられた持久走・マラソンと同様な運動特性を持っているにもかかわらず、女子学生に非常に好まれている点が注目されよう。健康管理の面から考えても、持続的な運動は身体にとって好ましいものであり、自発的に参加できるような持続的なスポーツも、短期大学の授業種目として適した種目であると考えられる。

### 3. 7. まとめ

今後の授業を充実させていくための基礎資料を収集することを目的として、学生の体育に対する好嫌度、短大で実施してみたい種目などを調査した結果以下のことが明らかとなった。

- 1) 小・中・高等学校の体育授業は各学校期を通して約60%以上の学生から肯定的に評価されていた。
- 2) 体を動かすことによる楽しさが、小・中学校の体育授業への好意的評価の主な理由となっており、高等学校になると、種目選択性も大きな役割を果たしていた。
- 3) 達成型種目への好き嫌いは体育に対する好嫌度に関係していた。集団で参加できる球技系種目は全体的に好まれていたが、逆に持久走・マラソンは嫌いな種目の第1位となっていた。
- 4) 体育授業に好意的評価をしている学生の運動クラブへの加入率は高かった。
- 5) 短期大学での運動クラブへの加入は非常に少なく、全体で1.7%であった。

6)短期大学の体育実技で実施したいスポーツ種目の第1位はエアロビックダンスであった。以下はテニス、ゴルフ、バトミントン、バレーボールなど球技系種目が好まれていた。

以上の結果から、本学学生は体育に対しおおむね好意的評価をしており、体を動かすことの欲求を持ち合わせていることが推察された。そして、その欲求を満たす場として、体育実技の授業が大きな役割を果たすものと考えられる。

#### 4. 結語

本学学生が入学する以前に経験してきた体育授業に対する好嫌度は、各学校期を通して、およそ60%以上の学生から肯定的な回答を得た。しかし、体育が好きと回答した学生でも、持久走やマラソンといった持久力・精神力を必要とするような種目に対しては否定的である。また、体育が嫌いな学生でも球技に対しては好意的である。このような傾向は、授業で取り扱われている種目の特性によるものと考えられる。すなわち、跳び箱などのように、自分一人でつらい練習に耐えなくてはならない種目よりも、仲間と一緒に楽しめる種目の方がどちらかと言えば好まれるからであろう。

一方、大学に入学後行なってみたい種目については、エアロビックダンス、テニス、ゴルフなどファッション性と流行を反映した種目についての回答が多くみられた。これらの種目は、1993年(平成5年)より本学の体育実技において取り入れている種目でもある。しかし、エアロビックダンスはその華やかさの反面、運動量は大きいものであり、持久力が必要なため、実際に行なってみてその大変さを感じるという学生も多いが、「卒業後も継続していきたい」という声が多いのも事実である。

1993年(平成5年)から新学習指導要領によって小・中・高の授業が展開されてきている。この改訂では、きたるべき生涯学習に対応できるような児童・生徒の育成が目的の一つになっている。これにより、高等学校の体育授業では種目の選択性が導入されるようになってきている。これは生徒一人一人が自分の興味・関心に合わせて設定された実技種目を選択・実施するというものであり、生徒たちも意欲的な学習ができる。

本学の保健体育実技では、1993年(平成5年)よ

り、エアロビックダンス、屋内種目(バトミントン、バスケットボール、バレーボール、インディアカなど)、および屋外種目(テニス、ゴルフ、ターゲットバードゴルフなど)という3種に分類し、学生の興味・関心により選択をさせてきている。現段階では、学生の運動欲求を充足しているといえることができるが、今後は、さらに種目の多様化と充実を考えていかななくてはならないと考えられる。これにより、体育の授業に対して肯定的な回答をした学生に、より満足感を与えることができるであろう。さらに、運動の必要性・楽しさ・付加価値などについて指導していくことにより、残りの学生にも体育実技に対する積極的な取り組み姿勢がみられるようになるであろう。以上述べてきたことを考慮し、授業を展開することが、今後さらに浸透して行くであろう生涯学習・生涯スポーツを実践していく態度の育成にもつながっていくことと考えられる。

#### 参考文献

- 1)麻生和江・波多野義郎・井上誠治・加藤敏明(1979) 中学生が評価する小学校体育授業の現状. 東京体育学研究, 6:19-24.
- 2)鈴木秀人(1996)運動種目の多様化と選択性授業. 学校体育2月号, 21-23.
- 3)宗倉啓・波多野義郎・山田俊二・奥居ゑり子(1978) 大学生が評価する高校体育授業の現状. 東京体育学研究, 5:42-47.
- 4)波多野義郎(1980) 高校生が評価する中学校体育授業の現状. 東京学芸大学紀要第5部門, 32:141-149.
- 5)波多野義郎・麻生和江・小玉一彦(1979) 運動能力の異なる大学生が評価する高校体育授業. 東京体育学研究, 6:13-18.
- 6)服部豊示・波多野義郎・猪狩洋一・秋葉尋子(1978) 大学生が評価する中学・高校の体育教師. 東京体育学研究, 5:48-53.
- 7)新堀通也(1994) 生涯学習と選択授業. 体育科教育3月号, 14-17.
- 8)日本体育会体育原理専門分科会(編), 大学教育改革と保健体育の未来像. 不昧堂出版, 1991.